

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会]

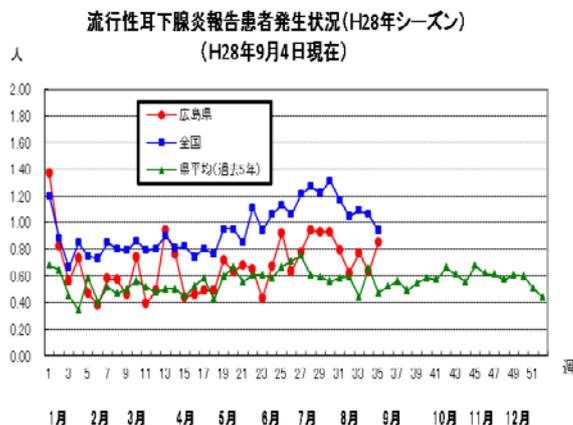
(平成 28 年 9 月解析分)

1 今月のトピックス

(1) 流行性耳下腺炎の流行に注意しましょう！！

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）の「定点医療機関当たりの報告患者数」は、例年、年間を通じて同程度で推移していますが、今年、全国において、年初より過去5年平均を上回るペースになっており、広島県においても同様の傾向が見られます。

県では、平成 28 年 9 月 8 日に注意報を発令し、感染の予防及び拡大防止の徹底について注意喚起を行っています。なお、西部東保健所管内（竹原市、東広島市、大崎上島町）及び東部保健所管内（三原市、尾道市、世羅町、府中市、神石高原町）で、定点医療機関からの患者報告数が多い状況が続いており、注意が必要です。



【病原体】 ムンプスウイルス

【症状】 両側又は片側の耳下腺（耳の下あたり）が腫れ、ものを嚙むときに顎に痛みを訴えることが多く、このとき数日の発熱を伴います。また、耳下腺に発赤が認められますが、膿汁の排泄はなく、1～2週間で軽快します。

合併症としては、無菌性髄膜炎、脳炎、睇炎、難聴などがあり、成人男性では睪丸炎、成人女子では卵巣炎がみられることがあります。

【感染経路】 患者のせきやくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」があります。潜伏期は2～3週間です。

ウイルスの感染力は強いとされていますが、感染しても発病しない（不顕性感染）場合も多くあります。

【予防方法】 予防接種を受けることが効果的な予防方法です。しかし、「おたふくかぜ」の予防接種は任意の接種となりますので、接種を希望される場合はかかりつけの医療機関に相談してください。

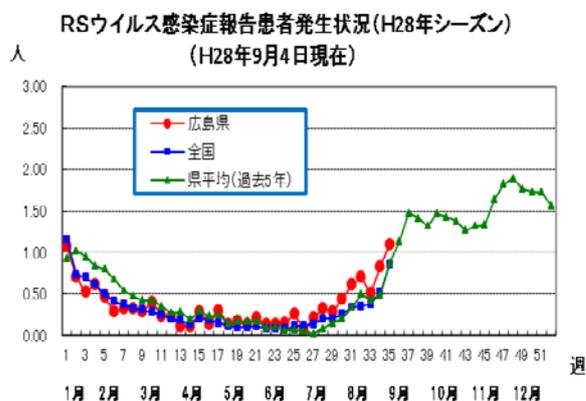
(2) RSウイルス感染症が増加中です！！

RSウイルス感染症は、例年9月頃から報告患者数が増加し、3月にかけて乳幼児を中心に流行します。今年も、広島県においては8月下旬から報告が増えています。

RSウイルス感染症は、繰り返し感染しますが、かぜに似た症状で多くの場合軽症で治まります。しかし、感染力が強く、1歳未満の乳児の場合や先天性心疾患、慢性肺疾患などを持つ小児の場合は重症化のおそれがあるため注意が必要です。

かぜの症状が現れたら、症状だけでは他の疾患と区別が付きにくいので、早めに医療機関を受診することをお勧めします。

なお、詳しい情報は、こちらのホームページを御覧ください。



RSウイルス Q&A

検索

2 疾患別定点情報 【速報値】

(1) 定点把握(週報)五類感染症

平成28年8月分(平成28年8月1日～平成28年9月4日:5週間分)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	5	0.01	0.01		11	ヘルパンギーナ	177	0.50	1.19	↓
2	RSウイルス感染症	266	0.75	0.59	↑	12	流行性耳下腺炎	260	0.73	0.55	↘
3	咽頭結膜熱	204	0.57	0.59	↘	13	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.02	
4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	467	1.32	0.89	↘	14	流行性角結膜炎	75	0.79	1.02	↗
5	感染性胃腸炎	1,587	4.47	3.24	→	15	細菌性髄膜炎	1	0.01	0.01	
6	水痘	135	0.38	0.50	→	16	無菌性髄膜炎	1	0.01	0.10	
7	手足口病	47	0.13	2.34	↘	17	マイコプラズマ肺炎	55	0.52	0.27	↗
8	伝染性紅斑	94	0.26	0.17	↘	18	クラミジア肺炎	0	0.00	0.01	
9	突発性発しん	147	0.41	0.53	→	19	感染性胃腸炎(ロタウイルス)	0	0.00	—	
10	百日咳	20	0.06	0.04	→						

(2) 定点把握(月報)五類感染症

平成28年8月分(8月1日～8月31日)

No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号	No	疾患名	月間発生数	定点当たり	過去5年平均	発生記号
20	性器クラミジア感染症	48	2.09	2.38	→	24	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	51	2.43	4.99	↘
21	性器ヘルペスウイルス感染症	18	0.78	0.71	→	25	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	10	0.48	0.45	↘
22	尖圭コンジローマ	13	0.57	0.78	→	26	薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0.00	0.12	
23	淋菌感染症	27	1.17	1.06	↑						

※「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当たり)

※ 報告数が少数(10件程度)の場合は発生記号は記載していません。

※ 感染性胃腸炎(ロタウイルス)は、平成25年10月14日から届出対象となったため、過去5年平均データはありません。

急増減疾患!!(定点当たり前比2倍以上増減)

- 急増疾患 **RSウイルス感染症** (0.31 → 0.75)
淋菌感染症 (0.48 → 1.17)
- 急減疾患 **ヘルパンギーナ** (1.00 → 0.50)

発生記号(前月と比較)

急増減	↑	↓	1:2以上の増減
増減	↗	↘	1:1.5～2の増減
微増減	↗	↘	1:1.1～1.5の増減
横ばい	→		ほとんど増減なし

定点把握対象の五類感染症(週報対象19疾患、月報対象7疾患)について、県内178の定点医療機関からの報告を集計し、作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD定点	基幹定点	合計
対象疾病No.	1	1～12	13, 14	20～23	15～19, 24～26	
定点数	43	72	19	23	21	178

3 一類・二類・三類・四類感染症及び全数把握五類感染症発生状況 【速報値】

類別	報告数	疾患名(管轄保健所)
一類	0	発生なし
二類	45	結核(45)〔西部保健所(8)、西部東保健所(2)、東部保健所(10)、北部保健所(2)、広島市保健所(12)、呉市保健所(5)、福山市保健所(6)〕
三類	18	細菌性赤痢(1)〔福山市保健所(1)〕、 腸管出血性大腸菌感染症(17)〔東部保健所(1)、北部保健所(3)、広島市保健所(2)、呉市保健所(2)、福山市保健所(9)〕
四類	11	A型肝炎(1)〔西部保健所(1)〕、E型肝炎(2)〔北部保健所(1)、福山市保健所(1)〕、 デング熱(1)〔広島市保健所(1)〕、重症熱性血小板減少症候群(1)〔北部保健所(1)〕、 日本紅斑熱(6)〔東部保健所(2)、広島市保健所(1)、福山市保健所(3)〕
五類全数	17	アメーバ赤痢(3)〔西部保健所(1)、広島市保健所(2)〕、 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症(6)〔広島市保健所(3)、呉市保健所(1)、福山市保健所(2)〕、 クロイツフェルト・ヤコブ病(1)〔西部東保健所(1)〕、 梅毒(7)〔西部保健所(1)、東部保健所(1)、広島市保健所(2)、呉市保健所(1)、福山市保健所(2)〕